

〔安齋隨筆 後編十一〕一軟障は、四方紫の縁ありは、八九寸程、中の布五幅と覺申候畫は彩色畫高

松也、上下に耳あり、尤兩面也、紐は綾をたゝみて用る也、

色紫

但古へは小鷹狩の軟障ありし由、今は其圖たへたりといふ、

〔台記〕仁平二年正月廿六日壬戌、今日於東三條再行大饗、廿七日癸亥、同殿、母屋北面東第二三

四間垂御簾、略、副東北二面簾引唐繪絹軟障四帖高松、相對敷青縁出雲筵帖白布六枚南北三枚爲

外記史座東上、外記北、史南、帖東、端去、軟障、五、尺、許、事、座、未、井、與、有、往、反、路、

〔兵範記〕仁安三年十一月廿三日庚辰、早旦參大極殿、大夫史并行事官皆參奉、仕節會御裝束、略、中同

帳、御左右壇下立高松軟障、新調也、至于東西壁下立之、悠紀方以唐纈爲端、各八幅、寛治色法也、主

自由也、以件軟障、立、隔、母、屋、與、廂、障、十二月十日丁酉、早旦著行事所、大嘗會威儀御物并判御調度、略、中、軟障六帖

各八幅、長九尺、面唐綾、裏練張白絹、在緋綱、

軟障用法

〔類聚名物考 調度 五〕軟障 せざう

今陽明家に有高松軟障といふ物の圖、世に有繪は一様ならず、はり様かな裝束抄に有、殿上には

る事也、されども源氏須磨卷に、海邊にての祓に、地に設けたる事も有れども、是はもし左遷の時

故、調度もと、のはざる故に、不具の事をわざと書なしたるにやあらん、

〔新儀式 四 臨時〕行幸神泉苑覽、競馬事、其儀母屋西面五間懸軟障、

〔西宮記 正月上〕二日二宮大饗、

延長三年正月二日、吏部記云、中宮饗設玄輝門西、略、中參議用兀子、南北面、後、設、長、押、上、王、公、座、屏、風、上、張、軟、障、

〔北山抄 三 拾遺雜抄〕射禮儀